



## KAMIYAMA Seconds!

2025年8月27日掲載

### FRBの9月利下げ可能性高まる

8月21～23日に開かれた経済シンポジウム「ジャクソンホール会議」で、米連邦準備理事会(FRB)のパウエル議長は思った以上に明確に近々利下げする可能性を示唆し、米国株は上昇、長期金利は低下、ドル円はドル安円高方向に動きました。

パウエル議長は、7月ごろの見方を変更し、関税によるインフレ・リスクよりも、雇用環境が悪化するリスクを重視するとしています。そこで、市場は、FRBが9月にも2024年12月以来の0.25パーセントの利下げをすると見込む動きになりました。

米国株式市場では、ニューヨーク・ダウ工業株30種平均が8カ月ぶりの高値となるなど、利下げ期待で株高となりました。一方で、米国利下げ期待から円高が進み、1ドル148円台から一時146円台となりました。

それでも日経平均株価は週明けの25日に上昇し、市場参加者は円高のデメリットより米国景気の維持回復のメリットが大きいとみたようです。

確かに、日本の輸出企業の輸出数量さえ安定していれば国内生産量が減らないことになり、円高は国内の人手不足・賃金上昇継続の足かせにならないでしょう。今後の日本株上昇は、賃金上昇や消費拡大、設備投資拡大の恩恵を受ける内需関連がけん引しそうです。

一方、FRBは「インフレよりも雇用が心配」という判断を続け、来年も四半期に1回、0.25パーセントの利下げを継続するでしょう。日銀の利上げも予想され、ドル円は来年夏までに130円台のドル安円高に進むと見えています。

それでも日本株は世界景気の安定を背景に、銀行・不動産など内需拡大を中心とした上昇基調を続けると予想します。

(日興アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更します。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》